

みんなで災害に強い町づくりに参加しよう！

# 安城市地区防災計画策定の手引き



安城市

# もくじ

・はじめに .....	1
・質問コーナー .....	2
・地区防災計画の取り組みの流れ .....	3
・ステップ① 地区の特性を診断する .....	4
・ステップ② 災害時の課題を抽出し、防災活動メニューを考える .....	5
・ステップ③ 地区防災計画書を作成する .....	7
・ステップ④ 防災活動メニューの企画書を作成する .....	8
・ステップ⑤ 防災活動メニューの企画書に沿って、実際に取り組む .....	10
・ステップ⑥ 取り組みを振り返り、次年度以降の企画書や 地区防災計画の修正をする .....	11
・様式 1 地区診断表 .....	13
・様式 2 地区の課題と防災活動メニュー整理シート .....	21
・様式 3 地区防災計画書ひな型 .....	23
・様式 4 防災活動メニュー企画書ひな型 .....	33
・様式 5 防災活動実施評価表 .....	35
・お役立ち情報 .....	37



# はじめに

平成 25 年 6 月に災害対策基本法が改正され、「地区防災計画」の考えが新たに創設されました。地区防災計画は、市内の一定の地区内の居住者及び事業者が主体的に行う防災活動に関する計画です。

災害から身を守るためにには、自らが災害に備える「自助」や、避難情報や指定緊急避難場所の提供・救命救助など行政による「公助」ももちろん大切ですが、これまでの実際の災害において、避難や救命救助などに大きな役割を果たしてきた地域での助け合い・支え合いの「共助」は欠かせません。阪神・淡路大震災では、倒壊家屋の下から救出された全体の約 8 割の方は、家族による自助や近隣の方々の共助により救出されています。「地区のみんなが助かるため」には、自助・共助の力を強くすることがとても重要です。

地区防災計画は、いみなれば「地区的自助・共助の計画」です。実際に地区に住み、地区の特性をよく把握している皆さんの中によって、自由に作ることができます。計画に何を記載するかも自由です。水害や地震が発生した時に生じる地区の不安や課題は何かを自分たちで調べ、解決するためのアイデアを考え、できることから取り組めるので、とても自由度が高く、参加しやすい地域防災活動です。安城市では、自主防災組織単位での地区防災計画の策定を想定して、地区防災計画作成時の参考としていただくために、本手引きを作成しました。

「地区のみんなが助かるため」には、地区防災計画を策定することがゴールではなく、計画策定や計画の実施を通じて、地区の不安や課題を整理し、何ができるかを皆さんで話し合い、準備・対策・訓練を行うことが重要です。地区の中で避難方法などを議論することが、いざという時に助け合う第一歩になります。地区に住む皆さんが、様々な人とのつながりの中で安心して暮らすために必要な準備や、話し合いに関わっていく過程は、災害時のみならず、日常からも「誰もが住みやすいまちづくりの取り組み」とも言い換えることができます。

この手引きを参考に地区防災計画を作っていく中で、地区的皆さんで防災について考えていただければ幸いです。



## 質問コーナー

安城市地区防災計画策定マニュアル検討会議などの質問から抜粋

Q1

ここでいう地区とは、どの範囲を指すのですか？

Q2

私たちの自主防災組織では、既に様々な防災活動を行っています。  
それでも、地区防災計画を作る必要があるのでしょうか？

Q3

私たちの自主防災組織は、あまり活発ではないので計画づくりは負担感が大きいし、せっかく作っても絵にかいた餅にならないか心配です。

Q4

地区防災計画は、取り組む過程で、地区に存在する不安や課題を共有することで地区的皆さんの危機感や災害への認識を改めることができます。地区からは「みんな忙しく、新しく計画を作る余裕はない」、「伊勢湾台風でも被害がなかったので自分の地区は大丈夫だと思っている。地区での防災活動の必要性を感じる人も少ない」、「防災対策の必要性は分かっているが、何から手を付けてよいのか分からない」という意見や悩みも聞かれます。

Q5

計画は、手引きに書かれている4つの手順に沿って取り組めば作成できるよう工夫されています。まずは、自分たちができる無理のない範囲の活動を見出すためのきっかけづくりと捉え、チャレンジしてみましょう。

Q6

また、手引きに沿って作成した場合、計画には「地区で実施したい今後の防災活動」が掲載されますので、次年度以降の防災活動を考える参考資料とすることができます。

Q7

地区防災計画は、地震と水害、どちらのケースで作成すればよいでしょうか？

Q8

想定する災害は、自主防災組織の皆さんのが選ぶことができます。どちらかに絞ってもよいですし、両方を想定して頂いてもかまいません。ただし、地区の不安や課題を整理すると、地震と水害両方に共通するものも多いので、両方を想定した計画を作ることをおすすめします。

Q9

他の地区のような立派な計画は作れそうもないのですが。

Q10

地区防災計画策定の初年度に、内容が濃く、たくさんの資料が添付された素晴らしい計画書を完成させようと無理する必要はありません。まずは基礎的な内容の計画書を作り、次年度以降に地区の活動を通して、少しずつ計画書の内容を深めることが大切です。地区的防災活動の充実とともにゆっくりと計画書を育てましょう。

# 地区防災計画の取り組みの流れ

## ステップ① 話し合いのメンバーを決める

ステップ①～④の話し合いに、誰を呼ぶのかを決めましょう。幅広い意見を聞くために、なるべく年齢・性別・立場が異なるメンバーを集めましょう。毎回大勢集まるのが難しければ、ステップ②の課題抽出と防災活動メニューを考えるときだけでも、様々な人に出席を求めたり、事前に意見聴取しておくなどの方法もあります。

## ステップ② 地区の特性を診断する

まずは、自分の住む地区について診断してみましょう。災害のリスクや普段の地域力などについて、診断することで、地区の強みや課題が見えやすくなります。「地区診断表」を活用して情報を整理してみましょう。

## ステップ③ 災害時の課題を抽出し、防災活動メニューを考える

ステップ①の結果をもとにして、災害が起こった時に不安に感じることを出し合いましょう。『災害時の不安＝地区で取り組むべき防災対策の課題』とも考えられます。課題が明らかになったら、解決のために地区で取り組めそうな防災活動メニューを考えましょう。すぐに結果が出る活動に限定する必要はありません。自由な発想で意見を出し合いましょう。また、せっかく防災活動をするのであれば、普段の地域づくり活動にも活かせれば一石二鳥です。どんなことに活かせるのかも合わせて考えてみましょう。

## ステップ④ 地区防災計画書を作成する

ステップ①・②の内容や地区で既に作成済みの資料（マップや各種ルール等）などをまとめて、地区防災計画書を策定しましょう。

## ステップ⑤ 防災活動メニューの企画書を作成する

ステップ②で考えた防災活動メニューの中から、当面3年間で取り組みたいものを選び、企画書を作成しましょう。「いつ」「誰が」「何を」「どのように」行うのかを具体化できれば、地区での継続的な取り組みにつながりやすくなります。

翌年以降

## ステップ⑥ 防災活動メニューの企画書に沿って、実際に取り組む

ステップ④で作成した企画書に沿って、実際に、防災活動に取り組んでみましょう。

## ステップ⑦ 取り組みを振り返り、次年度以降の企画書や地区防災計画の修正をする

参加者からアンケートを取ったり、中心メンバーで意見交換をしたりして、取り組んだ内容を振り返りましょう。成果や課題は、次年度に防災活動を行うための企画書の作成や、地区防災計画書の修正などに役立てましょう。



地区の防災力UP & より良い地区防災計画へ！

# 地区の特性を診断する

## 取り組みの目的と進め方

**地区診断表（様式1）**に、地区の基礎情報、災害時の危険リスクや日常の地域活動に関する情報を記入し、地区の強みと弱みを整理しましょう。



### 【ヒント】

- 市が作成したハザードマップ（地震、水害）、浸水マップ、校区別地震防災カルテ、防災ガイドブック、統計情報などを参考にする。
- 町内会や自主防災組織などが作成した防災マニュアル、手作りハザードマップ、地区防災マップなどを参考にする。
- 昔からいる人に、地区の歴史を聞いたり、新しく来た人に地区に対する印象などを聞く。
- 昼間と夜間の人口変動（生産年齢人口の人は仕事や学校で昼間は地域にいないことが多いなど）などを考慮することで現実に見合った幅広い想定をすることにつながる。災害の起こる時間帯によって、支援活動にあたることのできる人員の確保状況等が異なるので、訓練の内容や対象者の再検討等の参考にする。



### ワンポイントアドバイス

#### 『みんなのために、みんなでつくる！』

室崎益輝先生（兵庫県立大学防災教育センター長）



行政の地域防災計画がトップダウンの計画とすれば、コミュニティの地区防災計画はボトムアップの計画で、この2つの計画が車の両輪のように機能して初めて、地域の人々の命や暮らしを守ることができる。ところで、その地区防災計画が欠かせない理由は、そのプロセスとコンテンツにある。

みんなが一緒に作って作るというプロセスでは、創意性と自律性が育まれる。みんなでアイディアを出し合って作るので、創造的な計画が生まれる。みんなの思いを生かして作るので、わがこと意識と責任感が芽生える。それに加えて、みんなで作った計画を行政が公認するというプロセスでは、公共性と協働性が育まれる。コミュニティが勝手に作った計画ではなく、行政が認めた公的な計画であり、行政が協働すべき計画と位置づけられる。そこで決められた内容は、みんなが覚悟を持って履行するし、行政も責任を持って応援することになる。

それ以上に地区防災計画が有効とされるのは、コンテンツで地域の状況を反映したマイプランが作れるからである。避難所の食事の献立をみんなで作って、温かくて栄養価のある食事を提供することができる。コミュニティ所有のワゴン車を使って、一緒に避難所まで避難することができる。遠くの不便な学校ではなく、近くの便利な社寺や施設を避難所に指定することもできる。行政では思いつかない計画、行政ではできない対策を具体化することができる。

行政は冷たいおにぎりを大量に供給するのは得意だが、アレルギー体質の子供や菜食主義の外国人といった特殊性に即した料理を出すことは苦手である。その行政のできないことが、地区防災計画では可能になる。

# 災害時の課題を抽出し、防災活動メニューを考える

## 取り組みの目的

地区の課題と防災活動メニュー整理シート（様式2）に、災害が発生したら不安なことを書き出していきましょう。不安＝課題と考え、下記の時系列で整理すると分かりやすく分類できます。

また、課題が整理できたら、それを解決するための防災活動メニューを考えましょう。

地区の多様な人々と関わることができて、参加して「楽しい！」「役立った！」と思える内容になるよう柔軟な視点を取り入れるとよいでしょう。小中高校生、PTA、消防団員、防災士の資格を持った人、ママさんサークル、地元ボランティア・NPO、福祉施設、企業ボランティア、商工会議所や青年会議所、ライオンズクラブなど、地区にいる様々な立場の人たちが参加すると、出てくる課題や防災活動のアイデアの幅も広がります。

### （課題の時系列と分類例）

課題の時系列	不安（課題）の内容	課題や不安の考え方
①平常時	日常の防災対策の不安	家の安全対策／備蓄／感染症対策などに関すること
②災害直前	災害発生が予測できた場合の行動についての不安	雨雲・河川情報収集／緊急地震速報の活用／避難所開設／要配慮者の避難支援などに関すること
③災害発生時	災害が発生後、2週間程度までの間に起こることに対する不安	安否確認／避難所開設・運営／けが人対応などに関すること
④復旧・復興期	災害発生後、3週間以降に起こることに対する不安	長期化への不安／家の片づけ／住まいの修繕・確保／食事の確保／心身の健康問題／仮設住宅入所後のコミュニティづくりなどに関すること





## 【ヒント】防災活動メニューを考えるのに困ったら…

- 既に地区で行っている活動をちょっとレベルアップ、または何か付け足してみる。
- 普段行っている活動が、そのまま防災につながっているかも。視点を変えて見てみる。
- 他の地区や団体・企業等が、どんな活動をやっているのかを参考にしてみる。
- 水害では「手作りハザードマップ（愛知県事業）」や「マイ・タイムライン\*」、地震では「地域防災マップ（安城市補助事業）」の作成などを検討するのもよい。既に作成済みの場合は、定期的に内容を見直して更新するのも有効。
- 難しく考えすぎず、「こんなことやったら面白そう！」と思いついた後に、何に役立つかを整理してみる。理由は後付けでも良いのです。きっと何かに役立ちます。

\*マイ・タイムライン：台風の接近等によって洪水のおそれがあるときの自分や家族の行動を予め決めておくもの。時間的な制約が厳しい洪水発生時に、行動のチェックリストとして、また避難判断のサポートツールとして活用することで「逃げ遅れゼロ」に向けた効果が期待できる。「災害避難カード」をマイ・タイムラインとしている場合もある。様式は様々で、国土交通省のウェブサイトには小中学生向けマイ・タイムライン検討ツール「逃げキッド」掲載されており、内閣府や愛知県などのウェブサイトには「災害避難カード」が掲載されている。

## ワークショップの進め方

**用意するもの** 模造紙：1枚、ふせん紙（正方形）：2冊、黒のサインペン：人数分

- ①1班5名程度のグループを作る。幅広い意見が出やすいように男女混合が望ましい。
- ②ふせん紙を1人5枚ずつ配布する。
- ③各自で「災害時や日常の防災対策の中で不安に感じること」をふせん紙1枚につきひとつずつ書き出す。
- ④全員が書き終わったら、1人ずつふせん紙に書いたことを読み上げ、模造紙に貼り付ける（自分とほぼ同じ意見のふせん紙が出ていれば近くに貼る）。
- ⑤模造紙に貼った意見は、分類して**地区の課題と防災活動メニュー整理シート（様式2）**に書き込む。
- ⑥それぞれの不安を解決するための防災活動メニューを考え、話し合ったうえで**地区の課題と防災活動メニュー整理シート（様式2）**に書き込む。防災活動メニューを考える際は、③～⑤の手順と同様に、各自でふせん紙に「不安を解消するための防災活動メニュー」のアイデアを書き出した上で話し合うと、幅広いアイデアが出やすい。

## ポイント！ ワークショップを実り多いものとするためには

- ・人のアイデアは否定しない！ 「そういう考え方もあるね！」「その発想はなかったわ！」
- ・笑顔とうなづき！ あなたが難しい顔をしていると、みんな委縮しちゃうかも…。
- ・自分事として考える！ 「○○（例：市、町内会役員など）がやるべきだ」の連発では話が前に進みません。「自分には（地区では）何ができるかな？」の視点で考えてみましょう。

## 地区防災計画書を作成する

### 取り組みの目的

ステップ①・②でまとめた内容等を基に、地区防災計画書を作成します。

### 進め方

- 参考に**地区防災計画書ひなた（様式3）**を見てみましょう。
- ステップ①・②でまとめた内容のうち、地区防災計画として次年度以降に引き継いでいきたい内容を計画書に記載しましょう。
- 過去に地区で作成済みの資料（地域防災マップ、手作りハザードマップ、緊急連絡網、避難所での役割分担表、災害時の運営ルール等）についても、どんな資料があるのか計画書に記載したり、資料を計画書に添付してみましょう。そうすることで、地区の防災活動に関する資料の全体像がつかみやすくなり、次年度以降の活動時に参考にしやすくなります。
- 実際に計画書を作る際は、記載内容やデザインなど、必要事項を見やすく掲載するように工夫しましょう。



#### 【ヒント】

どんな項目を地区防災計画へ記載するのか迷ったら、地区にとって次年度以降も引き継ぐ必要のある内容なので判断しましょう。また、他の自治体の各地区の地区防災計画も参考にしてみましょう。同じ市であっても、地区によって計画書の記載内容が大きく異なっている事例もあります。デザイン等も参考になりますよ。



## 防災活動メニューの企画書を作成する

### 取り組みの目標

ステップ②で考えた防災活動メニューの中から、当面3年間で取り組みたい防災活動を実施するための企画書を作りましょう。ポイントは、「いつ」「誰が」「何を」「どのように」行うのかを具体化することです。これにより、企画への参加者や運営協力者を募りやすくなります。防災活動はそのまま、日常からのまちづくり活動にもつながります。防災とまちづくりを別々で捉えるのではなく、お互いが相関関係にあることをイメージしながら取り組めるとよいでしょう。

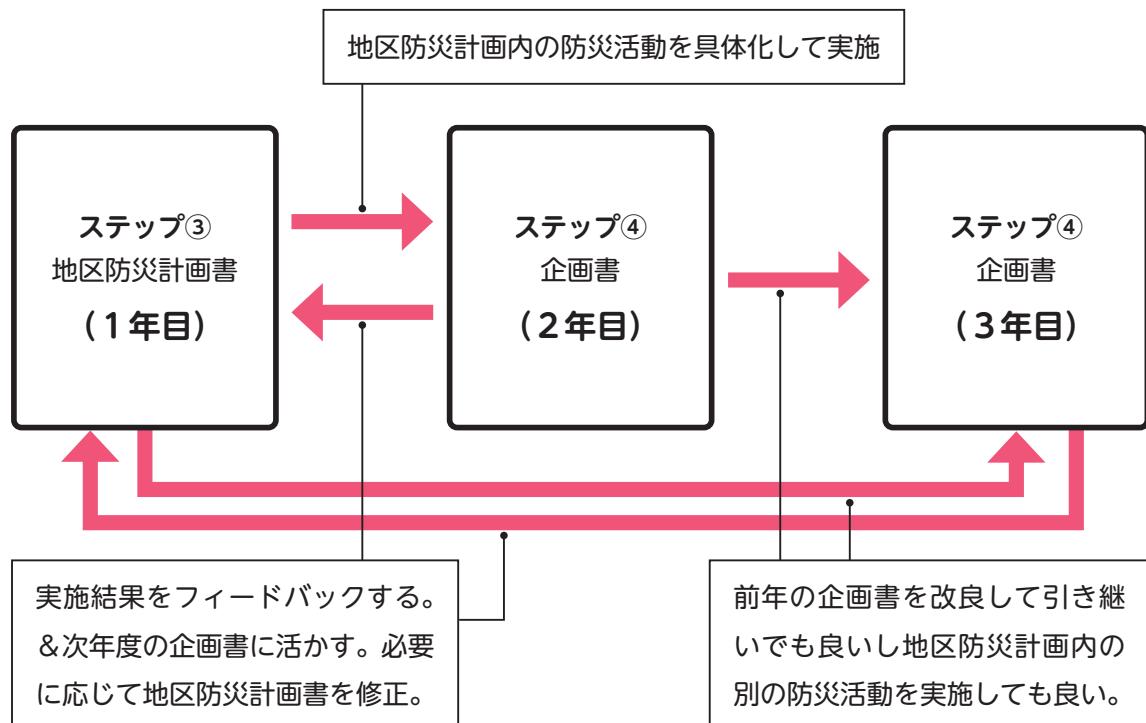
### 進め方

- (1) ステップ②で考えた防災活動メニューの中から、緊急性や取り組みやすさなどの視点から見て、優先順位の高いメニューを選びましょう。選ぶメニューは、①平常時、②災害直前、③災害発生時、④復旧・復興期の時系列に沿って、それぞれ1つ以上選ぶことを目標にしましょう。  
なお、地域防災マップや手作りハザードマップを作成していない地区については、まずは①平常時の取組において、マップを作成するのがおすすめです。マップを作成することで、避難所の場所や避難ルート、危険箇所などの必要な情報を一目でわかるようにまとめることができます。作成したマップを地区内に全戸配布して、情報共有をするのも効果的です。
- (2) 選んだメニューを実現するために、防災活動メニュー企画書（様式4）に必要事項を記入し、企画書を作成しましょう。企画書は、選んだメニューごとに1枚ずつ作成しましょう。単年度で完結することが難しいメニューの場合は、企画書を実施年度ごとにわけて作成すると、ゴールまでの全体像が分かりやすくなります。
- (3) 作成した企画書をもとに、当面3年間のどの年度に実施するのかを決めましょう。以下のような表を企画書に添付しておくと、3年間の予定が分かりやすくなります。

#### 〈3年間の予定の記入例〉

課題事例	内 容	令和4年度	令和5年度	令和6年度
平 常 時	各世帯での非常持ち出し袋の常備		●	
災 害 直 前	警戒レベルの理解周知	●		
災害発生時	在宅避難者支援拠点の運営訓練			●
復旧・復興期	水害復旧に必要な資機材の確保と使い方講習会の開催	●		

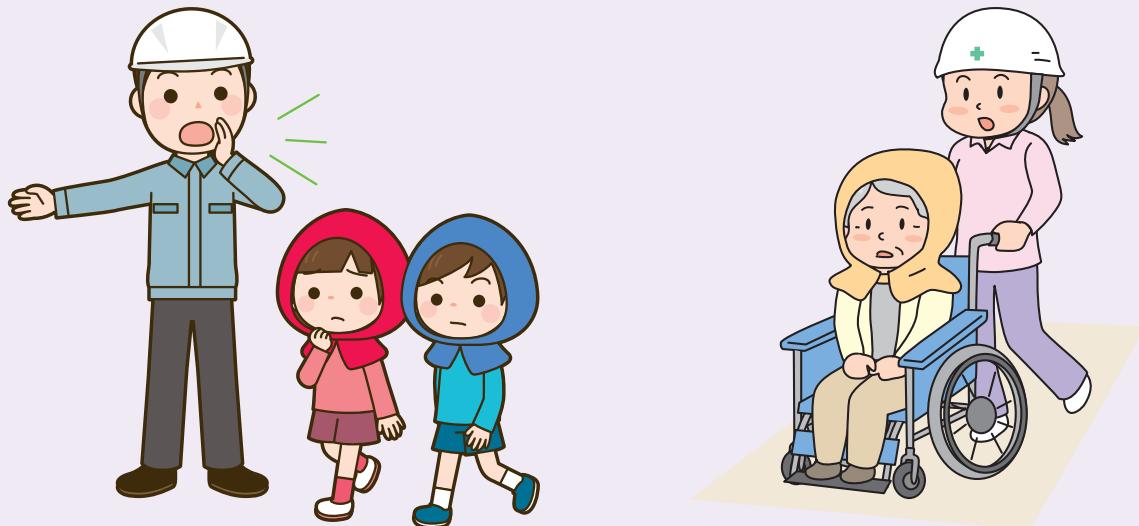
## 地区防災計画（ステップ③）と防災活動メニュー企画書（ステップ④）の関係イメージ



## 防災活動メニューの企画書に沿って、実際に取り組む

### 取り組みの目的と進め方

ステップ④で作成した企画書に基づいて、防災活動に実際に取り組んでみましょう。多くの方々に参加していただくためには、周知のための事前告知、チラシ作り、当日のスケジュールや準備物の確認などが必要になります。計画していた目標や方法がどこまで機能したのか、そこからもたらされる効果や新たな気づき、課題などは、実際にやってみなければ分かりません。実現可能で、今後も継続的な地域防災活動メニューにしていけるように、体を動かし、道具を使って確認しましょう。



## ステップ 6

# 取り組みを振り返り、 次年度以降の企画書や地区防災計画の修正をする

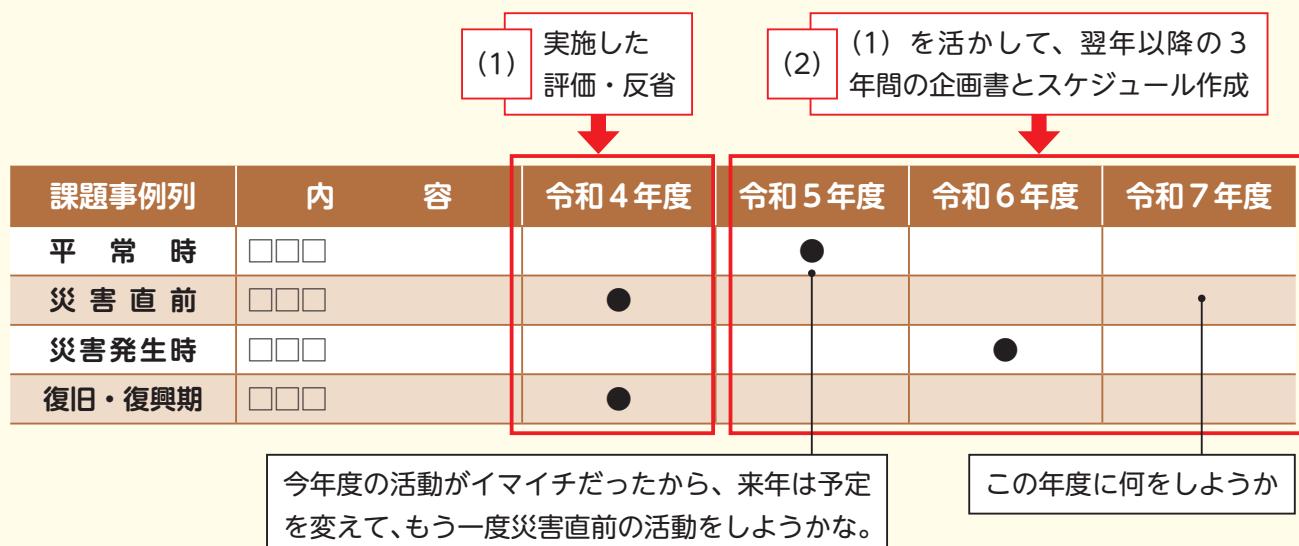
### 取り組みの目的

ステップ⑤の取り組みが、当初の目標を達成できたかを確認するために、評価してみましょう。更に、より良い取り組みにするために必要なことや、得られるとよい協力者を分析し、次年度以降の企画書に反映させましょう。

また、防災活動を通して気づいた新しい課題やアイデアがあれば、適宜、地区防災計画も修正しましょう。

### 進め方

- (1) 防災活動実施評価表（様式5）に記入し、取り組みの成果と課題を整理しましょう。
- (2) 今年度の取り組み結果を活かしつつ、翌年以降の3年間の企画書とスケジュールを作成しましょう（翌年と翌々年の企画書は、既にステップ④で作成済みのものを活用しても良いです）。必要に応じて、地区防災計画書も修正しましょう。



#### 【ヒント】 地区の特性や実情に合わせた活動

- マップを作って避難訓練を実施したけど、うちの地区は水害リスクの高いエリアと大丈夫なエリアが混在しているから、いまいちしっくりこなかったな。  
→来年度は、水害が心配なエリアの人達がいかに早く安全に避難できるかに焦点を当てて訓練してみようかな。水害の心配がないエリアでの受け入れ訓練も一緒に実施しよう。
- 防災訓練の時に聞いてみたら、みんな全然食料の備蓄をしていない。地震が来たらどうするの。  
→来年度の防災訓練のときには、業者さんに来てもらってサンプル品を展示してもらう？  
それとも参加賞で保存食を配って、一緒に注文チラシもつけてみようか。チラシを配つてあげれば業者さんも安く売ってくれないかなあ。

# 様式集

様式1 地区診断表

様式2 地区の課題と防災活動メニュー整理シート

様式3 地区防災計画書のひな型

様式4 防災活動メニュー企画書

様式5 防災活動実施評価表

地区診断表

名組織百選としての自立原則※

## (1) 地区の基本情報（対象地区の人・モノ・資源）

現在取り組んでいる 防災対策	項目	実施状況	工夫している点（あれば）
防災講演会、DVD等研修	毎年 <input type="checkbox"/> 数年に1回	□過去に1回	□なし・不明
家具転倒防止訓練	毎年 <input type="checkbox"/> 数年に1回	□過去に1回	□なし・不明
図上訓練	毎年 <input type="checkbox"/> 数年に1回	□過去に1回	□なし・不明
地震体験訓練	毎年 <input type="checkbox"/> 数年に1回	□過去に1回	□なし・不明
資機材取扱訓練	毎年 <input type="checkbox"/> 数年に1回	□過去に1回	□なし・不明
安否確認訓練	毎年 <input type="checkbox"/> 数年に1回	□過去に1回	□なし・不明
情報収集・伝達訓練	毎年 <input type="checkbox"/> 数年に1回	□過去に1回	□なし・不明
消防訓練	毎年 <input type="checkbox"/> 数年に1回	□過去に1回	□なし・不明
応急手当	毎年 <input type="checkbox"/> 数年に1回	□過去に1回	□なし・不明
救出訓練	毎年 <input type="checkbox"/> 数年に1回	□過去に1回	□なし・不明
搬送訓練	毎年 <input type="checkbox"/> 数年に1回	□過去に1回	□なし・不明
濃煙通過	毎年 <input type="checkbox"/> 数年に1回	□過去に1回	□なし・不明
避難訓練	毎年 <input type="checkbox"/> 数年に1回	□過去に1回	□なし・不明
給食訓練(炊き出し訓練含む)	毎年 <input type="checkbox"/> 数年に1回	□過去に1回	□なし・不明
給水訓練	毎年 <input type="checkbox"/> 数年に1回	□過去に1回	□なし・不明
避難所訓練	毎年 <input type="checkbox"/> 数年に1回	□過去に1回	□なし・不明
車いす訓練	毎年 <input type="checkbox"/> 数年に1回	□過去に1回	□なし・不明
マンホールトイレ設置訓練	毎年 <input type="checkbox"/> 数年に1回	□過去に1回	□なし・不明
防災関連のマップづくり	毎年 <input type="checkbox"/> 数年に1回	□過去に1回	□なし・不明
その他 ( )	毎年 <input type="checkbox"/> 数年に1回	□過去に1回	□なし・不明

毎年市にご報告いただく  
「自主防災訓練等の計画・  
報告書」の訓練内容を  
ベースにしてあります。

実施状況	
<b>地区的年間行事</b> 防災対策以外の主な行事を記入しましょう	例：1月初寄り合い、5・9月草刈り・側溝清掃、10月町内運動会、10月○○神社お祭り
<b>安全・安心活動</b> 安心・安全に暮らすために普段取り組んでいる事を記入します	例：自主防犯パトロール、子どもも110番、旗振り（子どもも見守りなど）
<b>地区的自慢・特長</b> 地区で自慢できる事や物を記入しましょう	例：町が小さいので全員顔見知り、畑が多いので食糧には困らない、町内に大小たくさんのお店がある、人口が多い、町内公民館が立派、○○がある
	その他、気になること

## (2) 自然特性

地区における災害特性のうち、自然災害の発生特性（暴風、豪雨、洪水、地震、その他の異常な自然現象）を分析して記入しましょう。

参考資料：地震・水害ハザードマップ、校区別地震防災カルテなど

## ア 地区で予測される自然災害

○×	災害種別	被害の内容	発生時期	特記事項・具体的な場所など
	地 震	建物の全壊・消失（10%以上）	地震発生時	
	地 震	がけ崩れ・地すべり	地震発生時～発生後の降雨後	
	地 震	津波被害／津波災害警戒区域	地震発生後	
	地 震	液状化現象	地震発生時	
			川	
			川	降雨中～降雨後
	大 雨	浸水害 (外水氾濫)	川	※ 上流での降雨も注意
			川	
	大 雨	浸水害（内水氾濫）	降雨中～降雨後	
	大 雨 土砂災害	がけ崩れ・地すべり 土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域	降雨中～数日後	

## イ 浸水想定区域内要配慮者施設

河川の名称	施設名	施設の種類	所在地
例：〇〇川	□□老人ホーム	特別養護老人ホーム	

## ウ 過去の災害

災害名	場所	被害状況

## (3) 社会特性

地区の災害特性的うち人為性の高い災害（停電、道路寸断による孤立、ライフライン途絶、その他）や、人口構成について分析して記入しましょう。

## ア 地区で発生が予想される人為災害

○×	災害の種類	発生時期	特記事項など
長時間停電	地震、強風、降雨・洪水、大雪	トイレ（下水・浄化槽）が使えなくなる可能性あり	
長時間断水	地震、洪水	トイレが使えなくなる可能性あり	
長時間下水道損傷	地震、洪水		

## イ 人口構成

参考資料：市ウェブサイトの統計（人口・世帯）、オープンドータ（統計関係）

①地区内の人口	人	人	－
②世帯数	世帯	世帯	－
③65歳以上	人	高齢化率 (③／①)	%
④③のうち75歳以上	人	割合 (④／①)	%
⑤生産年齢人口（15～64歳）	人	割合 (⑤／①)	%
⑥3歳未満	人	－	
⑦避難行動要支援者支援制度の登録者（のうち情報提供同意者）	人	－	
⑧外国人世帯	世帯	世帯	－

## (4) 地区における防災対策の現状について

※この項目は、地区の大まかな傾向を掴むための質問ですので、正確さは求めません。記入される方の感覚でお答えください。

項目	内容	地区の取り組みの状況
家の安全対策	古い木造家屋はどのくらいありますか？	<input type="checkbox"/> 沢山ある <input type="checkbox"/> 少しはある <input type="checkbox"/> あまりない <input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> 分からぬ
	地区として各世帯に家具の転倒防止の啓発をしていますか？	<input type="checkbox"/> よくする <input type="checkbox"/> たまにする <input type="checkbox"/> あまりしない <input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> 分からぬ
	地区として各世帯に地震ブレーカー設置の啓発をしていますか？	<input type="checkbox"/> よくする <input type="checkbox"/> たまにする <input type="checkbox"/> あまりしない <input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> 分からぬ
街頭消火器	街頭消火器はどのくらいありますか？（目標：1本／20世帯）	<input type="checkbox"/> 1本／20世帯より多い <input type="checkbox"/> 1本／20世帯より少ない <input type="checkbox"/> 分からぬ
備蓄品の準備	災害時の備蓄品や資機材を地区で準備していますか？	<input type="checkbox"/> 沢山している <input type="checkbox"/> 少している <input type="checkbox"/> あまりしていない <input type="checkbox"/> していない <input type="checkbox"/> 分からぬ
	地区として各世帯に災害時の備蓄品等の準備の啓発や呼びかけをしていますか？	<input type="checkbox"/> よくする <input type="checkbox"/> たまにする <input type="checkbox"/> あまりしない <input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> 分からぬ

項目	内容	地区の取り組みの状況
防災訓練や勉強会などで、風水害の「警戒レベル」の話題を取り上げたことはありますか？	□よくある □少しある □あまりない □ない □分からない	
防災訓練や勉強会などで、下記の危険情報の話題を取り上げたことはありますか？ 例) 記録的短時間大雨情報／線状降水帯／大雨特別警戒警報など	□よくある □少しある □あまりない □ない □分からない	
地区で避難のタイミングや方法について定めたルールはありますか？	□ある □ない □検討中	
地区で避難等を呼びかける手段は何がありますか？ (当てはまるものすべて選択)	□隣近所の声のかけあい □消防団のサイレン □ホームページ □電話連絡網 □ファックス □掲示板 □メール・LINE □SNS □その他( ) □分からない	
町内会や自主防災組織からの情報発信や情報共有の手段は何ですか？ (当てはまるものすべて選択)	□ホームページ □電話連絡網 □ファックス □掲示板 □回覧板 □メール・LINE □SNS □その他( ) □分からない	
地区の中で「分散避難」について話し合ったことはありますか？ 「分散避難」の選択肢として、地区が避難場所として地域住民に提供できる可能性のある施設について話し合ったことはありますか？	□よくある □少しある □あまりない □ない □分からない	
地区が避難場所として地域住民に提供できる可能性のある施設の感染症対策を知っていますか？	□よく知っている □概ね知っている □あまり知らない □知らない □分からない □該当する施設がない	
地区が避難場所として地域住民に提供できる可能性のある施設に、感染症対策のための備品や資材を用意していますか？	□十分にしている □少ししている □あまりしていない □していない □分からない □該当する施設がない	

項目	内容	地区の取り組みの状況
避難・ 安否確認	地区に住んでいる人の名簿はありますか？または誰が住んでいるのか把握していますか？	<input type="checkbox"/> 地区内全員の名簿がある <input type="checkbox"/> 町内会加入者の名簿がある <input type="checkbox"/> 名簿はあるが更新しておらずかなり古い <input type="checkbox"/> 名簿はないが大体把握している <input type="checkbox"/> 名簿がなく把握もしていない <input type="checkbox"/> 分からぬ
避難	避難行動要支援者は把握できていますか？ (市から更新のあつた月に該当者（のうち情報提供同意者）の名簿を配布)	<input type="checkbox"/> よくできている <input type="checkbox"/> 少しできている <input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない <input type="checkbox"/> 分からぬ
避難生活	住民同士の声かけや助け合いの体制はできていますか？	<input type="checkbox"/> よくできている <input type="checkbox"/> 少しできている <input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない <input type="checkbox"/> 分からぬ
避難生活	指定避難所の開設準備や運営に関する役割分担について、地区での話し合いや訓練を実施したことがありますか？	<input type="checkbox"/> よくしている <input type="checkbox"/> 少ししている <input type="checkbox"/> あまりしていない <input type="checkbox"/> していない <input type="checkbox"/> 分からぬ
その他	在宅・車中泊の避難者への支援について知っていますか？	<input type="checkbox"/> よく知っている <input type="checkbox"/> 少し知っている <input type="checkbox"/> あまり知らない <input type="checkbox"/> 知らない
その他	地区内で、在宅避難者同士の助け合いや支援はできますか？（声掛け、炊き出し、援助物資の配布など）	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> 少しできる <input type="checkbox"/> あまりできない <input type="checkbox"/> できない <input type="checkbox"/> 分からぬ
その他	災害後に市役所さくら庁舎に開設される「災害ボランティアセンター」の活用について、地区で話し合ったことはありますか？	<input type="checkbox"/> よくしている <input type="checkbox"/> 少ししている <input type="checkbox"/> あまりしていない <input type="checkbox"/> していない <input type="checkbox"/> わからぬ
その他	地区内の昼間の人口の特徴について話し合ったことはありますか？	<input type="checkbox"/> よくしている <input type="checkbox"/> 少ししている <input type="checkbox"/> あまりしていない <input type="checkbox"/> していない <input type="checkbox"/> わからぬ
その他	災害について、他の地区や企業等などと、連携や話し合いをしたことありますか？	<input type="checkbox"/> よくしている <input type="checkbox"/> 少ししている <input type="checkbox"/> あまりしていない <input type="checkbox"/> していない <input type="checkbox"/> わからぬ

## 地区の課題と防災活動メニュー整理シート（記入例）

災害時の地区の不安（課題）を出し合い、分類し、課題を解決するための防災活動メニューを考えましょう。

課題の時系列	災害時の不安（例）	課題分類（例）	地区で取り組む防災活動メニュー（例）
平常時 日常の防災対策の不安	耐震性の悪い家屋が多い 室内の安全対策のやり方が分からない 水以外用意していない	家の安全対策 家の安全対策 備蓄品の準備	市のまちかど講座などを申し込み開催する 市のまちかど講座などを申し込み開催する。防災訓練のときに啓発する。 防災訓練のときに各家庭での備蓄推進の啓発をする
	コロナ対策に必要な備蓄品が分からない	備蓄品の準備、感染症対策	マスク、消毒液などを町内公民館に備蓄する
	コロナが心配で避難所に行きたくないが、家にいるのも心配。	感染症対策	感染の専門家による勉強会を開く。日頃から各自で複数の避難先（ホテル、親戚・知人宅など）を検討するように啓発する。
災害直前 災害発生が予測された場合 の行動についての不安	要配慮者をどうやって避難誘導すればよいか 雨の中、避難所まで歩くのが遠くて大変 インターネットが使えないでの情報収集が心配 安全な道がどこか分からない	避難・安否確認 避難のタイミング 避難のタイミング 避難・安否確認	避難訓練への参加や居室から玄関前までの自力避難啓発を行う マイタイムライン作成などを通じて早めの避難を啓発する 災害時の情報収集の講習を開催する 防災マップを作る、各世帯で避難ルートをイメージするよう啓発する
	生き埋めになつた人をどう救助するか	避難・安否確認	バールやジャッキ等を備蓄し、使い方講習を開催する
	地区に誰が住んでいるか分からず安否確認できない 安否確認の仕組みがない	避難・安否確認 避難・安否確認	平常時に地区に住んでいる人の名簿を整理しておく 他の地区の仕組みなどを参考にして、安否確認方法を決めておく
災害発生時 災害が発生後、2週間程度までの不安	感染者が避難所に来たらどうすればよいか 避難所に行かなくても支援はしてもらえるのか 車中泊で体調を崩さないか 避難所での女性や子どもへの性暴力などが怖い	避難・安否確認、感染症対策 避難生活 避難生活 避難生活	感染者の専門家による勉強会を開く。防災訓練時に対応を練習する。 在宅避難者への支援の啓発や訓練を実施する 車中泊者のための生活の注意事項のチラシを配布する 女性や子どもも用スペースの確保、避難所運営会議に複数の女性を入れる
	何をどうすれば良いのかイメージができるない	避難生活	過去の災害の体験者を呼んで勉強会を開催する
	仮設住宅にはいつから入れて何年住めるのか 仮設住宅に入つたら知り合いがいないくて不安 高齢なので家の片づけができるか心配 不安	避難生活 地域コミュニティの再生 避難生活	災害後の公的な支援制度に関する情報を集める 過去の災害の体験者を呼んで勉強会を開催する 災害ボランティアセンターについての情報を啓発する
復旧・復興期 災害発生後、3週間以降の不安			

## 地区の課題と防災活動メニュー整理シート

災害時の地区の不安（課題）を出し合い、分類し、課題を解決するための防災活動メニューを考えましょう。

課題の時系列	災害時の不安	課題分類	地区で取り組む防災活動メニュー
<b>平常時</b> 日常の防災 対策の不安			
<b>災害直前</b> 災害発生が予測された場合の行動についての不安			
<b>災害発生時</b> 災害が発生後、2週間程度までの不安			
<b>復旧・復興期</b> 災害発生後、3週間以降の不安			

## ○○地区防災計画 ひな型

はじめに

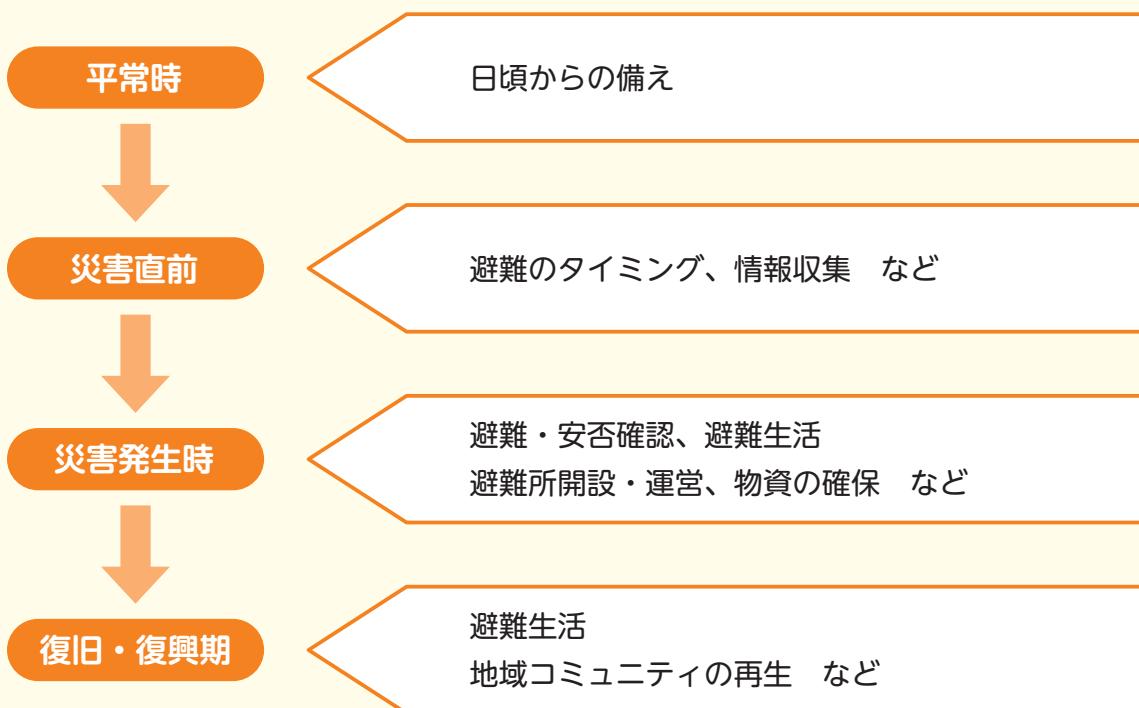
平成 25 年 6 月に災害対策基本法が改正され、「地区防災計画」の考えが新たに創設されました。

災害から身を守るために、自らが災害に備える「自助」や、避難情報や指定緊急避難場所の提供・救命救助など行政による「公助」ももちろん大切ですが、これまでの実際の災害において、避難や救命救助などに大きな役割を果たしてきた地域での助け合い・支え合いの「共助」は欠かせません。阪神・淡路大震災では、倒壊家屋の下から救出された全体の約 8 割の方は、近隣の方々の共助により救出されています。地区のみんなが助かるために、共助の力を強くすることがとても重要です。

私たちの地区では「自分たちの地区は自分たちで守る」という心構えで、地区のみんなで助け合いながら、災害に強いまちづくりを進めます。

地区での取り組みを計画的に推進するため、●●自主防災会として「●●地区防災計画」を定め、地震や水害に対する平常時からの備えの充実を図るとともに、災害時における共助を着実に実行するため、この計画に基づく防災活動に取り組み、地区の防災力を高めていきます。

年       月       日



## 1 地区の特性

様式1の「地区診断表」をもとに記載するイメージです。  
地区が必要と思う項目だけを記載するのも可です。

### (1) 地区の基本情報（対象地区の人・モノ・資源）

項目	詳細	特記事項
人口・世帯		
避難所・一時避難場所等		
消防団		
企業・事業所・NPO等		
団体、人		
現在取り組んでいる防災対策		
地区的年間行事（防災活動以外）		
安全・安心活動		
地区的自慢・特長		

### (2) 自然特性

#### ア 地区で予測される自然災害

災害種別	項目	詳細	特記事項
地震	建物の全壊・消失 (10%以上)		
地震	がけ崩れ・地すべり		
地震	液状化現象		
大雨	浸水害（外水氾濫）	川	
大雨	浸水害（内水氾濫）	川	
大雨 土砂災害	がけ崩れ・地すべり 土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域	川	

#### イ 浸水想定区域内要配慮者施設

河川の名称	施設名	施設の種類	所在地

## ウ 過去の災害

い つ	災 害 名	場 所	被 害 状 況

## (3) 社会特性

### ア 地区で発生が予想される人為災害

災害の種類	発 生 時 期	特記事項など
長時間停電	地震、強風、降雨・洪水、大雪	
長時間断水	地震、洪水	
長時間下水道損傷	地震、洪水	

## イ 人口構成

項 目	人 数 ・ 世帯 数	特記事項など
①地区内の人口	人	
②世帯数	世帯	
③65歳以上	人	
④ ③のうち 75歳以上	人	
⑤生産年齢人口（15～64歳）	人	
⑥3歳未満	人	
⑦避難行動要支援者支援制度の登録者	人	
⑧外国人世帯	世帯	

## (4) 地区における防災対策の現状

項 目	内 容	地区の取り組みの状況
家の安全対策	古い木造家屋の多い集落への対策	
	各世帯への家具転倒防止の啓発	
	各世帯への感震ブレーカー設置の啓発	
	街頭消火器の設置（目標：1本／20世帯）	
備蓄品の準備	災害時の備蓄品や資機材の準備	
	各世帯への災害時の備蓄品等の準備の啓発	
避難のタイミング	風水害の「警戒レベル」の周知（訓練時や勉強会等）	
	記録的短時間大雨情報・線状降水帯・大雨特別警戒警報等の危険情報の周知	
	避難のタイミングや方法について定めた地区的ルールの作成	
	地区で避難等を呼びかける手段	

項目	内 容	地区の取り組みの状況
避難のタイミング	町内会や自主防災組織からの情報発信や情報共有の手段	
感染症対策	「分散避難」についての周知や話し合い	
	「分散避難」の選択肢として、地区が避難場所として地域住民に提供できる可能性のある施設についての周知や話し合い	
	地区が避難場所として地域住民に提供できる可能性のある施設の感染症対策の方法についての周知や話し合い	
	地区が避難場所として地域住民に提供できる可能性のある施設への、感染症対策のための備品や資材を用意	
避難・安否確認	地区に住んでいる人の把握	
	避難行動要支援者の把握（市から名簿配布あり）	
	住民同士の声かけや助け合いの体制	
避難生活	指定避難所の開設準備や運営に関する役割分担についての話し合いや訓練の実施	
	在宅・車中泊の避難者への支援方法や周知	
	地区内での在宅避難者同士の助け合いや支援についての話し合いや訓練の実施（声掛け、炊き出し、援助物資の配布など）	
	災害後に市役所さくら庁舎に開設される「災害ボランティアセンター」の活用についての話し合いや周知	
その他	地区内の昼間の人口の特徴についての話し合いや周知	
	他の地区や企業等などとの、災害時の連携や話し合いの実施	

様式 2 の「地区の課題と防災活動メニュー整理シート」をもとに記載するイメージです。

## 2 今後地区で取り組みたい防災活動の内容

時系列	分類	今後地区で取り組みたい防災活動の内容
平 常 時	家の安全対策	
	備蓄品の準備	
	感染症対策	
	その他 ( )	
災 害 直 前	避難のタイミング、 情報収集、情報発信	
	避難・安否確認	
	その他 ( )	
災害発生時	避難・安否確認	
	避難生活	
	その他 ( )	
復旧・復興期	避難生活	
	地域コミュニティの 再生	
	その他 ( )	

既に地区で作成していればそれを添付する（または資料名だけ記載する）。作成していない場合は、計画と一緒に作成するか、次年度の取組として作成するのがおすすめです。4以降も同様。

### 3 地区の防災体制

○○自主防災会		
1 組織の体制	役員	電話番号
	会長	TEL
	副会長	TEL
	○○部長	TEL
2 避難場所等	○○部長	TEL
	施設名	電話番号
	○○公民館	TEL
3 避難経路	○○小学校	TEL
	○○	TEL
3 避難経路	○○マップのとおり	
4 緊急時の連絡先	連絡先	電話番号
	安城市役所	TEL 76-1111
	安城消防署	TEL ※非常時は 119
	安城警察署	TEL ※非常時は 110
	○○電力	TEL
	○○ガス	TEL
	NTT西日本	TEL
	災害用伝言ダイヤル（録音時）	TEL
5 その他		

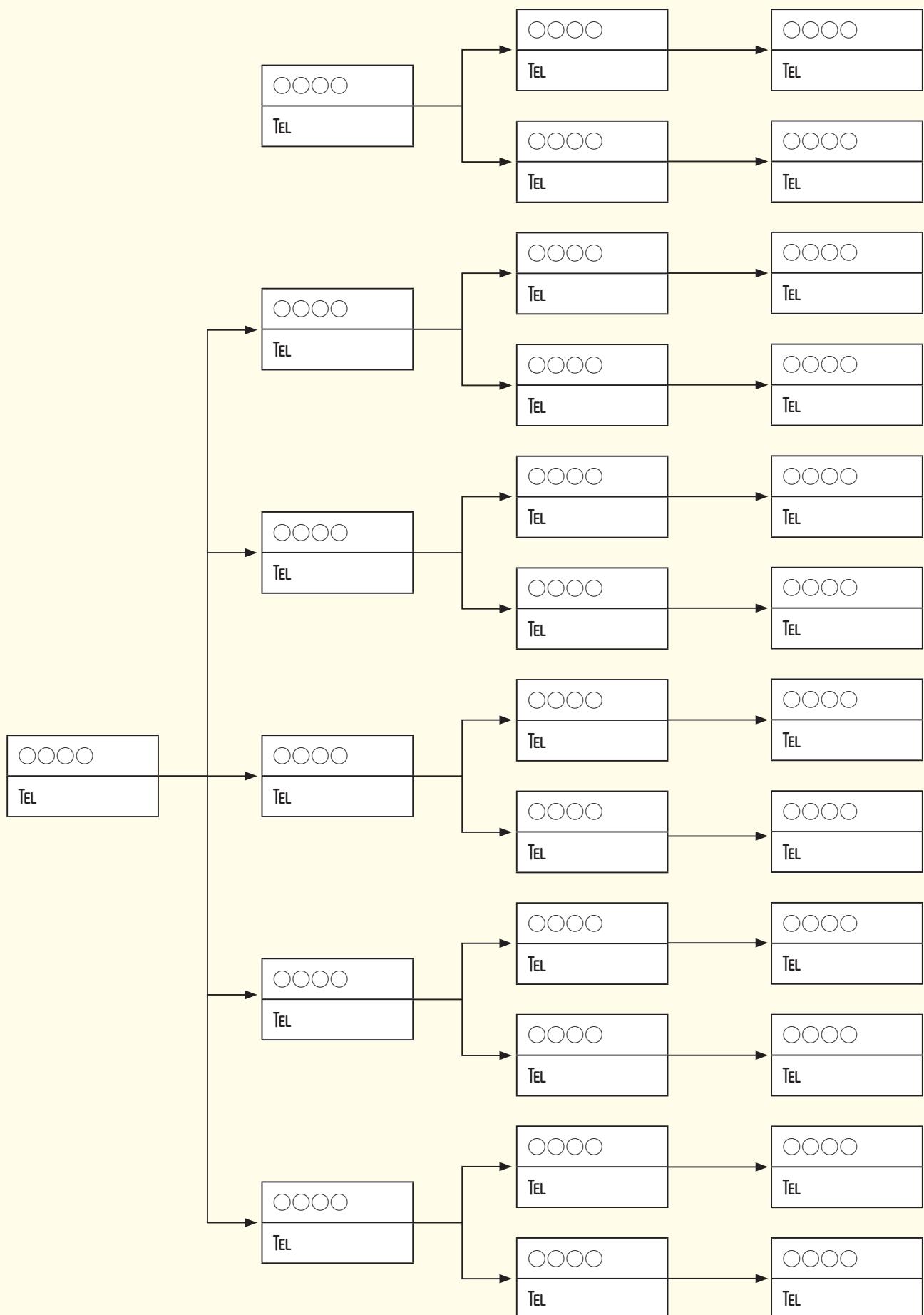
#### 4 避難所での各班

係・班	担当者	役割	
		災害発生から速やかに「避難所運営委員会準備会」立ち上げ	3日を目安に「避難所運営委員会」立ち上げ
運営本部 ↓ 総務班	○○組長	<p>全体の取りまとめを行います。</p> <p>(主な役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所全体の運営、各係間の連絡調整</li> <li>・避難所の区割り</li> <li>・避難所運営のルールづくり</li> <li>・市と施設管理者の連絡調整</li> </ul> <p>など</p>	<p>名称は「総務班」に変更</p> <p>災害対策本部との連絡、ボランティアの受け入れ、マスク対応なども行います。</p>
受付係 ↓ 名簿班		<p>避難者名簿の作成や管理を行います。</p> <p>(主な役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難者受付場所の設置</li> <li>・「避難者名簿」の集計・避難者数の報告</li> </ul> <p>など</p>	<p>名称は「名簿班」に変更</p> <p>近隣の在宅避難者や車中泊者などの把握にも努めます。</p>
物資係 ↓ 物資班		<p>生活物品の管理や配給を行います。</p> <p>(主な役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・救援物資の受け入れ、在庫管理</li> <li>・住民への配給、防災倉庫管理</li> </ul> <p>など</p>	<p>名称は「物資班」に変更</p> <p>在宅避難者や車中泊者などにも配慮して配給します。</p>
救護係 ↓ 救護相談班		<p>けが人や要配慮者の対応を行います。</p> <p>(主な役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・救護スペース、福祉避難スペースの設置</li> <li>・けが人、病への応急手当</li> <li>・要配慮者の名簿作成</li> </ul> <p>など</p>	<p>名称は「救護相談班」に変更</p> <p>外国人、性的マイノリティ(※L G B T等)への配慮も必要です。医療や福祉の専門家の受け入れ窓口になります。</p>
トイレ係 ↓ 衛生班		<p>トイレの設置、衛生管理を行います。</p> <p>(主な役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仮設トイレの設置</li> <li>・トイレの使用ルールの作成、周知</li> <li>・トイレ掃除当番の募集、選定</li> </ul> <p>など</p>	<p>名称は「衛生班」に変更</p> <p>施設全体の掃除やゴミ箱の設置管理、感染症予防などを行います。</p>

係・班	担当者	役割	
誘導係 ↓ 誘導班		<p>避難者の誘導を行います。</p> <p>(主な役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難者の受付へ誘導</li> <li>・車両の駐輪スペースへ誘導</li> <li>・車中泊者の把握者</li> </ul>	<p>名称は「誘導班」に変更</p> <p>引き続き同様の役割を継続します。</p>

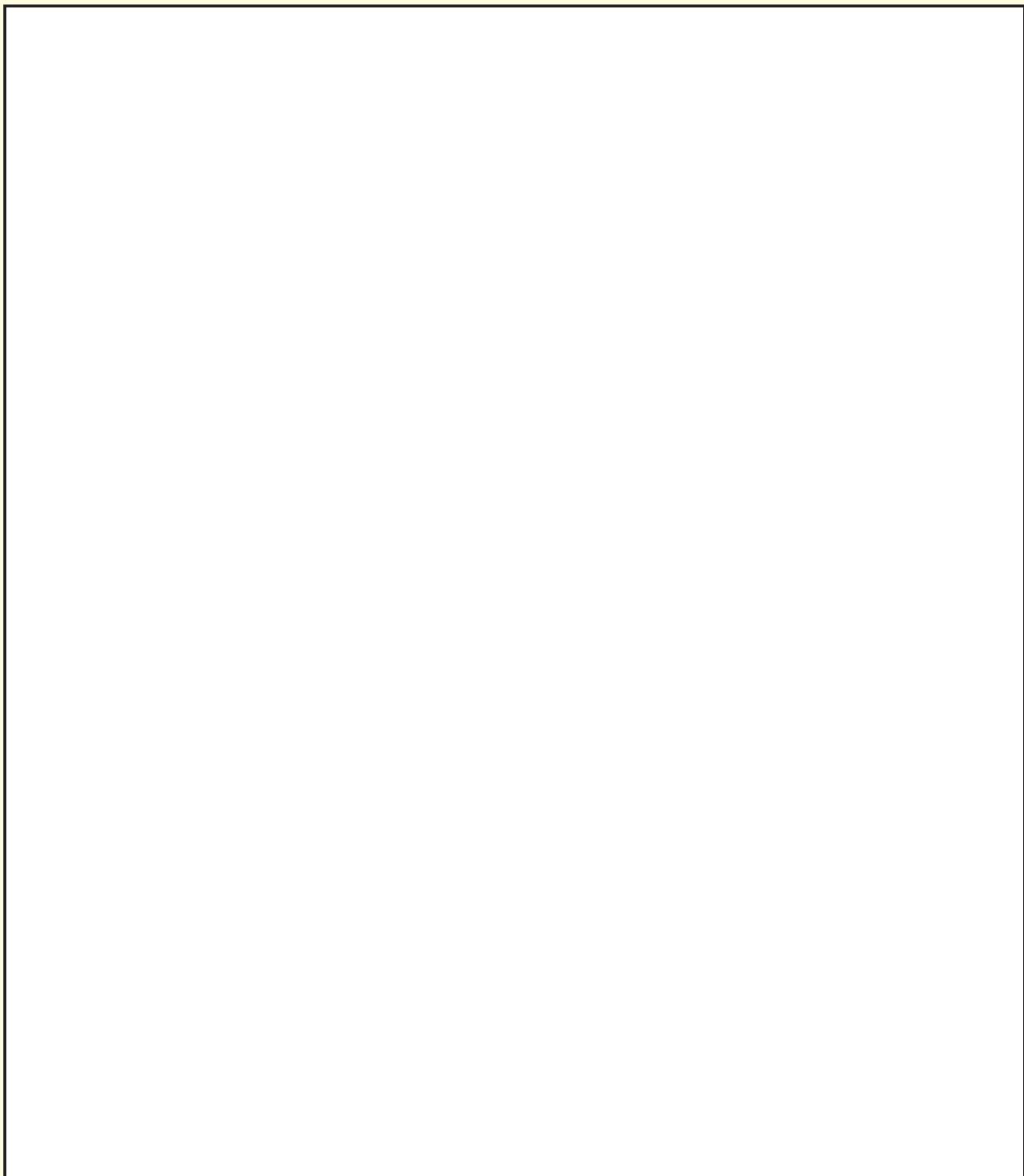
正式な避難所運営委員会の立ち上げ時には、これに、食事の調理や配膳等を行う『食事班』、様々な情報の収集、周知を行う『連絡広報班』が加わります。

## 5 地区の連絡網



6 防災資機材


7 防災マップ



令和3年度 No. 2

## 防災活動メニュー企画書（記入例）

課題時系列	該当する項目にレ点を付ける <input type="checkbox"/> 平常時 <input type="checkbox"/> 災害直前 <input type="checkbox"/> 災害発生時 <input checked="" type="checkbox"/> 復旧・復興期
災害の種類	該当する項目にレ点を付ける <input checked="" type="checkbox"/> 水害 <input type="checkbox"/> 地震 <input type="checkbox"/> 水害・地震の両方 <input type="checkbox"/> 土砂災害
名 称	※取り組みたい防災メニューの名称 水害復旧に必要な資機材の確保と使い方講習会の開催
目 的	水害発生時に役立つ資機材の種類を理解し、災害発生後、すぐに地区で確保できるよう、数・種類・保管場所一覧を作成する。また、資機材を持っている可能性のある人や、地元事業所等に対し協力依頼すると共に、地元で動ける災害ボランティア（資機材が使える人）の育成を目指す。
内容と方法	※いつ、誰が、何を、どのように行うか、具体的な進め方の手順を記入 ①自主防災組織役員勉強会の開催（2021年4月） 災害に詳しいNPO団体等（NPO法人〇〇を予定）を講師に招き、水害後の復旧作業で役立つ資機材について説明。指定避難所、防災倉庫、各世帯、事業所等持っている可能性のある人や場所について情報を出し合う。 ②現地調査（2021年5月） ①の情報に基づいて、現地に出向き資機材の種類や数を確認。リスト化する。資機材貸し出しに協力してくれそうな個人・事業所等へ協力依頼する。 ③資機材の使い方講習会の開催（2021年6月） 実際の被災地でよく使う資機材を選定し、住民に安全で効率的な使い方を習得してもらう。また、資機材保管リストも共有し、いざという時に地区ですぐに集められるよう周知・呼びかけを行う。
スケジュール	※事業開始から終了までの流れ（いつまでに）を時系列に記入 4月 自主防災組織役員会の開催 災害に詳しいNPO団体等（NPO法人〇〇を予定）へ講師依頼 5月 資機材リストの作成、個人・企業への協力依頼 資機材の使い方講習会のチラシ作成、周知 6月 講習会の実施、資機材リストの完成 次年度以降の資機材
協力者・役割	※実施するにあたり、協力が必要な人や関係機関と、期待する役割を記入 <b>普段の地域活動でも活かせそうなことがあれば波線をつける</b> ・地元企業、商店→資機材の貸し出しの協力依頼をする事業所の選定 ※日常の地域行事でも貸してもらえるかも知れない ・市→地区で借用できる資機材の確認、地区で購入する資機材が市の補助対象となるかの確認 ・社会福祉協議会→資機材の使い方を教えてくれるボランティアの紹介

年度 No.

## 防災活動メニュー企画書ひな型

課題時系列	<p>該当する項目にレ点付ける</p> <input type="checkbox"/> 平常時 <input type="checkbox"/> 災害直前 <input type="checkbox"/> 災害発生時 <input type="checkbox"/> 復旧・復興期
災害の種類	<p>該当する項目にレ点付ける</p> <input type="checkbox"/> 水害 <input type="checkbox"/> 地震 <input type="checkbox"/> 水害・地震の両方 <input type="checkbox"/> 土砂災害
名 称	※取り組みたい防災メニューの名称
目 的	
内容と方法	※いつ、誰が、何を、どのように行うか、具体的な進め方の手順を記入
スケジュール	※事業開始から終了までの流れ（いつまでに）を時系列に記入
協力者・役割	※実施するにあたり、協力が必要な人や関係機関と、期待する役割を記入 普段の地域活動でも活かせそうなことは波線で記入

年度 No.

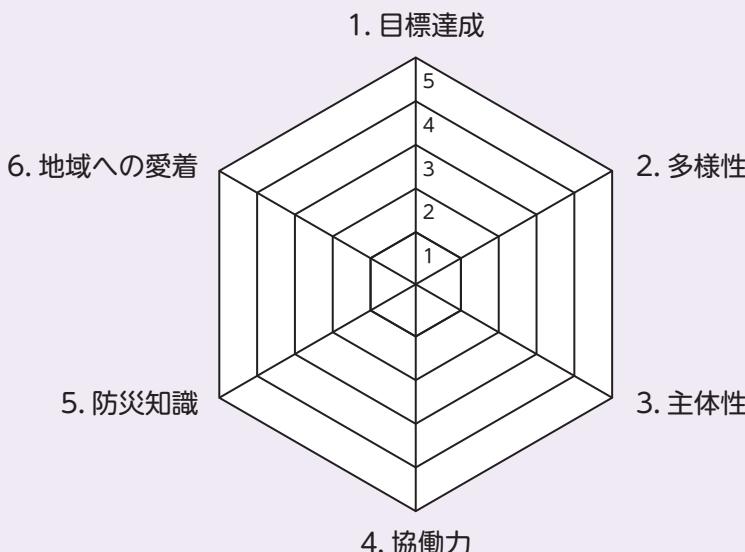
## 防災活動実施評価表

### (1) 取り組み全体を振り返って

下記の項目について、5段階評価でチェックしてみましょう。

- 5. とてもあてはまる      4. ややあてはまる    3. どちらともいえない
- 2. あまりあてはまらない    1. あてはまらない

項目	評価				
(目標達成) 予定していたことは実施できましたか？	<input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
(多様性) 年齢、性別、職業等、様々な立場の人々が参加しましたか？	<input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
(主体性) 準備や運営に様々な立場の人が主体的に関わりましたか？	<input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
(協働力) 消防団、民生委員、社協、学校、事業所、NPO・ボランティア、行政などと協働できましたか？	<input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
(防災知識) 住民の防災知識やノウハウは高まりましたか？	<input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
(地区への愛着) 地区活動への関心を高めたり、住民同士の交流の機会に繋がりましたか？	<input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				



※当てはまる番号に印をつけ、線で結んでみましょう。点数が低かったところは、次年度以降の課題として、重点的に取り組むための参考にしましょう。

## (2) 活動の中で、次年度にも活かしたい「よかつたこと」と記入しましょう。

よかつたこと	理由

## (3) 課題が残ったところと次年度に向けた改善のアイデア

課題	改善のアイデア

## (4) 次年度取り組む住民へのメッセージ

# お役立ち情報

## 全般

### ■安城市「災害お役立ち情報」

<https://www.city.anjo.aichi.jp/kurasu/bosaibohan/yakudachi/index.html>



### ■安城市「災害情報・緊急情報の入手方法」

<https://www.city.anjo.aichi.jp/kinkyu/saigaikinkyujoho.html>



### ■安城市「私が避難する避難場所・避難所はどこですか？」

<https://www.city.anjo.aichi.jp/faq/kurasu/bosaibohan/004.html>



### ■愛知県「愛知県の災害関連情報ポータルサイト」

<https://www.pref.aichi.jp/site/aichisaigai-portal/>



### ■国土交通省「ハザードマップポータルサイト」

<https://disaportal.gsi.go.jp/>



## 水害

### ■安城市「水害ハザードマップ」

<https://www.city.anjo.aichi.jp/kurasu/bosaibohan/yakudachi/hazardmap/index.html>



### ■安城市「河川水位観測システム」

<http://www.kasen-suui.city.anjo.aichi.jp/AROP/AROP001>



### ■愛知県「川の防災情報」

<https://www.kasen-aichi.jp/Top.html?time=1613713702596>



### ■国土交通省「川の防災情報」

<https://www.river.go.jp/portal/#80>



## ■国土交通省「地点別浸水シミュレーション検索システム（浸水ナビ）」

<https://suiboumap.gsi.go.jp/>



## ■内閣府「避難行動判定フロー」及び「避難情報のポイント」

<http://www.bousai.go.jp/fusuirai/typhoonworking/pdf/houkoku/campaign.pdf>



※内閣府ホーム > 内閣府の政策 > 防災情報のページ > 風水害対策 > 中央防災会議防災対策実行会議「令和元年台風第19号等による災害からの避難に関するワーキンググループ」<http://www.bousai.go.jp/fusuirai/typhoonworking/> の「令和元年台風第19号等を踏まえた水害・土砂災害からの避難のあり方について（報告）（令和2年3月31日公表）」内の資料

## 水害（マイ・タイムライン）

### ■国土交通省「マイ・タイムライン」

<https://www.mlit.go.jp/river/bousai/main/saigai/tisiki/syozaiti/mytimeline/index.html>



### ■内閣府「防災情報のページ「災害・避難カード事例集」

[http://www.bousai.go.jp/oukyu/hinankankoku/saigai\\_jireisyu.html](http://www.bousai.go.jp/oukyu/hinankankoku/saigai_jireisyu.html)



### ■愛知県「みずから守るプログラム」

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kasen/0000048848.html>



うち資料のダウンロードページ「みずから守るプログラム ダウンロードライブラリー」

※「大雨洪水 災害避難カード」もここに掲載されています

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kasen/0000078387.html>



## 地震

### ■安城市「地震ハザードマップ」

<https://www.city.anjo.aichi.jp/kurasu/bosaibohan/shitorikumi/jishinhazardmap.html>



### ■安城市「小学校区別地震防災カルテ」

<https://www.city.anjo.aichi.jp/kurasu/bosaibohan/yakudachi/karute.html>



## 避難所・感染症等

■安城市「自主防災組織のための避難行動と避難所開設・運営の手引き（地震災害時編）」  
<https://www.city.anjo.aichi.jp/kurasu/bosaibohan/hinanjyomanyuaru.html>



■安城市「避難所における感染症対策ガイドライン」

<https://www.city.anjo.aichi.jp/kurasu/bosaibohan/hinanjyomanyuaru.html>



■愛知県「避難所の運営対策（愛知県避難所運営マニュアル）」

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/saigaitaisaku/0000013288.html>



■厚生労働省「「新型インフルエンザ対策ガイドライン」について」

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou04/09.htm>

うち「事業者・職場における新型インフルエンザ対策ガイドライン」

「個人、家庭及び地域における新型インフルエンザ対策ガイドライン」など



■日本赤十字社「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！」

～負のスパイラルを断ち切るために～」

[http://www.jrc.or.jp/activity/saigai/news/200326\\_006124.html](http://www.jrc.or.jp/activity/saigai/news/200326_006124.html)



■特定非営利活動法人（認定NPO法人）全国災害ボランティア支援団体ネットワーク

「新型コロナウイルス避難生活お役立ちサポートブック」

<http://jvoad.jp/wp-content/uploads/2020/06/5a06198f7ed43dc4d5d3d57f86dc6032.pdf>



※「特定非営利活動法人（認定NPO法人）全国災害ボランティア支援団体ネットワーク」の「ガイドライン」<http://jvoad.jp/guideline/> 内の資料



◆————◆  
令和3年3月発行

編著 安城市危機管理課、認定NPO法人レスキューストックヤード

発行者 安城市危機管理課(0566-71-2220)